

1. 都市拠点の目標と方針

(1) 目標

- ・麻生区の都市拠点を考える上での目標を次のように設定します。

【都市拠点テーマ別方針の目標（キャッチフレーズ）】

- ① **それぞれのまちが主役となる拠点づくり**
- ② **今あるまちの資産を十二分に活用する拠点づくり**

① それぞれのまちが主役となる拠点づくり

- ・日本では、今後人口が減少し、少子・高齢化社会の到来、また、『生活の質』という近年の言葉に表されるように、個人の多様な価値観が重視されることが予想され、画一・機能化よりも、魅力ある都市が生き残る『都市間競争』の時代に入ろうとしています。
- ・この『都市間競争』を生き抜くために、麻生区においても、独自性を保ちつつ、個性を発揮しながらも、連携して活力を持てる拠点づくりが求められます。
- ・麻生区の主な鉄道駅周辺の商業集積地区（主に新百合ヶ丘、百合ヶ丘、柿生各駅周辺地区）の果たす役割は、後背住宅市街地の性格や形成過程により異なっており、また、それぞれの拠点がそれぞれの個性や特色を持っています。
- ・そこで、新百合ヶ丘、百合ヶ丘、柿生の各駅周辺地区では、各々が個性や特色を活かし、ある分野については、広域的に魅力あるまちを目標としつつも、主に地域生活に密着した、多世代に魅力あるまちを目指します（各拠点の個性・特色については、「2. 各拠点別のまちづくり方針」を参照）。

② 今あるまちの資産を十二分に活用する拠点づくり

ーリニューアル型から修復型のまちづくりへー

- ・経済財政状況等の時代背景や、限定された拠点地区の広がりやを考慮し、大規模かつ新たな都市機能を集積するよりも、既存（もしくは整備が進行中）のまちのストックを最大限に活かした機能の導入を図ることが望まれます。
- ・ただし、既存で不足している最低限の都市基盤については、整備することが必要となります。（柿生駅周辺地区など）。また、将来整備されるべき基盤整備が長期にわたる場合は、暫定的な課題提案を考えていきます。

(2) 方針

※方針部分は都市構造との整合を図る時に、都市構造方針に集約されるものと考えられます。

① 都市拠点の位置づけと配置 —それぞれのまちが主役となる拠点づくりを目指して—

- ・麻生区の都市拠点を次のように位置づけ、配置します。

1) 生活中心拠点・生活拠点

- ・新百合ヶ丘駅周辺地区、百合ヶ丘駅周辺地区、柿生駅周辺地区は、地域住民へ日常的なサービス提供を行うための、麻生区の『生活拠点』として位置づけます。

(主に職(商業)・遊(文化)機能中心)

- ・新百合ヶ丘駅周辺地区については、他の生活拠点と比べ、麻生区全体の職、遊、住等の機能を充足させる中心的な役割を担うものとして、『生活中心拠点』として位置づけます。(職・遊・住機能の調和)

■新百合ヶ丘駅周辺地区の広域的な位置づけと『生活中心拠点』としての考え方

○基本的には『生活中心拠点』としての位置づけを目指す

○芸術・文化の分野に関しては、地域的な視野とともに広域的な視野も必要

【「2010プラン」の位置づけ】

- ・新百合ヶ丘駅周辺地区は、「2010プラン」により、川崎市の「新都心」(＝広域拠点)として、6つの都心の一つ、北部ゾーンの都市機能拠点として位置づけられ、「商業・業務市街地の形成」を目標としています。

【駅周辺地区の現状】

- ・「2010プラン」が目指している「商業・業務市街地の形成」については、同地区の現況を見れば、ある程度達成されている状況といえます。
- ・また、同地区は、町田、たまプラーザ等と比較して、後背住宅市街地が限定され広がり欠ける点、現状の商業規模で格差がある点、広域交通結節機能が比較的弱い点等が挙げられます。
- ・一方で、行政サービス機能や一定規模の商業機能が集積しているため、区民の日常的な行動範囲に含まれているといえます。
- ・同地区では、「2010プラン」に基づき、芸術文化を振興する拠点として『芸術のまち構想』が推進され、シネマコンプレックス(複合映画館)や芸術学校などの立地が進んでいます。今後は、アートセンターや昭和音楽大学の立地が予定されており、芸術・文化機能のさらなる充実が図られ、区民の文化活動などへの有効活用が期待されている状況です。また、入国管理事務所の立地、成田、羽田両国際空港への直通バスの運行、外資系企業の立地などから、国際的に開かれたまちの息吹が感じられます。

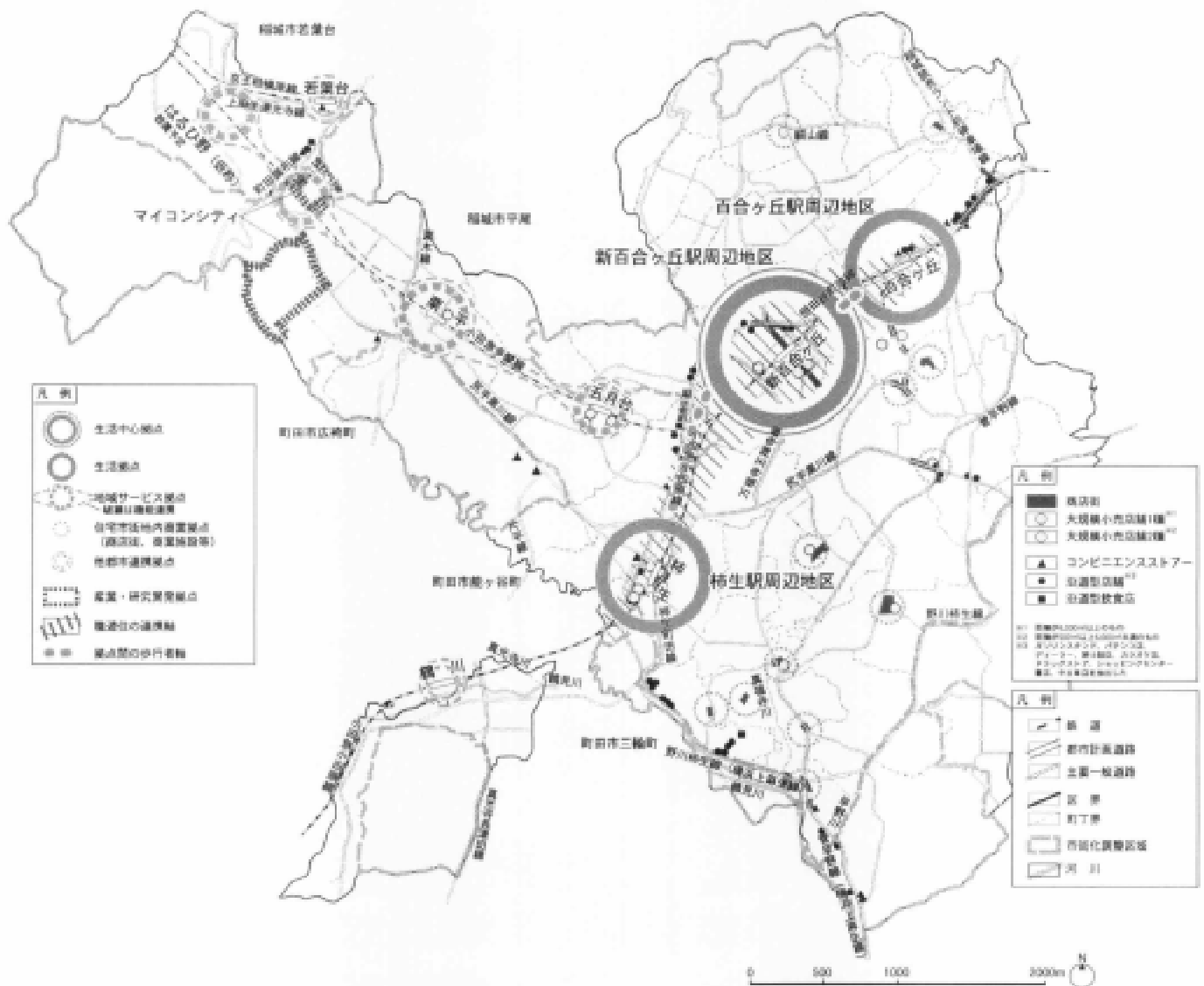
【今後の『生活中心拠点』としての方向性】

- ・このため、同地区では、「2010プラン」市街地形成の目標のさらなる達成を目指しつつも、基本的には地域生活に密着した『生活中心拠点』を目指すものと考えられます。
- ・ただし、シネマコンプレックスなど芸術・文化機能については、広域的な利用者も比較的想定されるため、これらの分野については、将来的には、麻生区民の「遊(文化)機能」を担うとともに、広域的な視野に立った拠点機能としても想定しておくことが必要と考えられます。

2) 地域サービス拠点

- ・小田急多摩線地域の鉄道駅（五月台、栗平、黒川、はるひ野（設置予定））は、周辺地区住民へ公共サービス、その他身近なサービス機能を提供する『地域サービス拠点』として位置づけます。（主に住機能中心）
- ・『地域サービス拠点』は、同地域の中心部にあり、駅周辺で商業的土地利用の立地進行が予想される栗平を中心に、機能を連携・補完する形で拠点形成を図ります。

■都市拠点の位置づけと配置の方針



3) 他都市連携拠点

- ・ 若葉台駅は麻生区に位置していますが、隣接する稲城市（多摩ニュータウン）方面に駅が展開しています。また、町田市に位置する鶴川駅は岡上地区に隣接しているため、川崎市とこれら隣接市間で連携したまちづくりが必要です。
- ・ このため、新たな都市拠点地区の形成に向けて、隣接市と協議・調整を行う必要がある拠点を『他都市連携拠点』として位置づけます。

4) 住宅市街地内商業拠点

- ・ 三井プラザ、新百合グリーンプラザ等は、近隣住民を対象に、住宅市街地内において商業を核とする日常的なサービス機能を提供する『住宅市街地内商業拠点』として位置づけます。（主に職（商業）機能中心）

5) 産業・研究開発拠点（マイコンシティ）

- ・ マイコンシティは、研究開発機能とあわせて、地域住民への公共サービス機能、良好な住機能を提供する、広義の『産業・研究開発拠点』として位置づけます。（主に研究開発機能中心）

■職遊住の連携軸

- ・ 柿生駅周辺地区から、新百合ヶ丘駅周辺地区、百合ヶ丘駅周辺地区に至る拠点及び小田急線沿線地区については、少子・高齢化社会への対応、都市の魅力向上等を図るため、多世代が享受できる、職・遊・住機能の調和した施設導入や環境づくりを目指す軸として位置づけます。
- ・ 都市拠点と住宅市街地を融合させる役割と、各生活拠点間を連結させる役割を持ち、また、人を呼び込む仕掛けづくりを行うことが求められます。
- ・ さらに、後背住宅市街地に居住する高齢者が、利便性のより高い場所を得るために居住を求めた際の受け皿として、若者世代が居住しつつ、高齢者居住の維持・確保を行うことが求められます。

※ 「職遊住の連携軸」には、拠点間の歩行者軸（P.101 参照）も含まれます。

② 都市拠点と後背地との関係について

1) 各都市拠点が分担する後背住宅市街地の範囲

- ・麻生区における後背住宅市街地の形成過程と都市拠点との関係から、各都市拠点の分担する後背住宅市街地の範囲として、概ね次のような設定が想定されます。

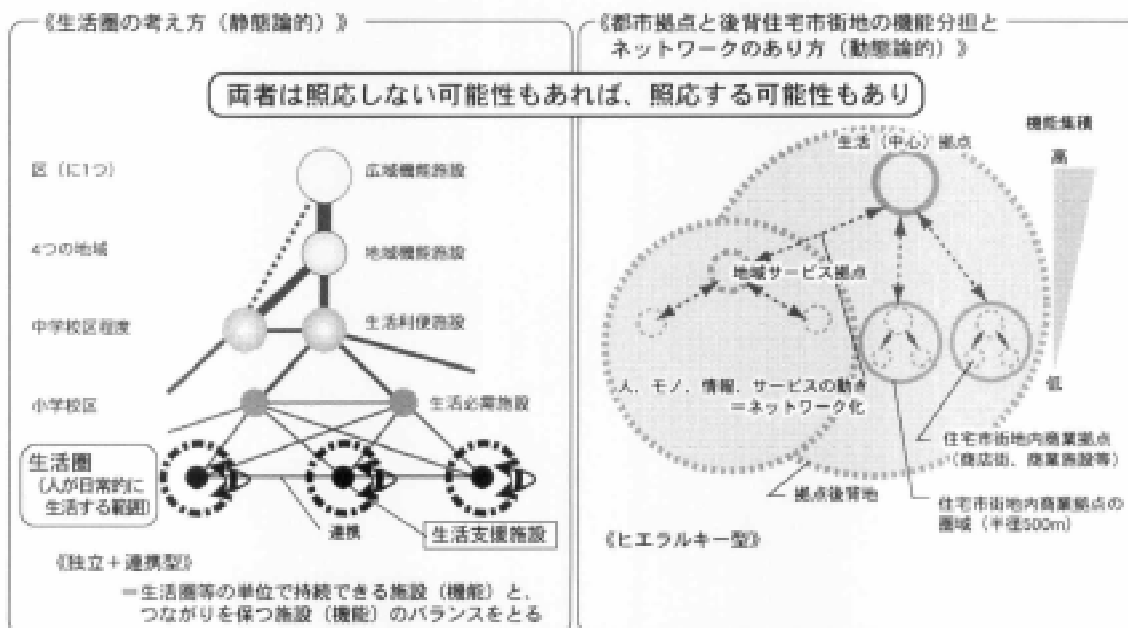
■都市拠点と後背住宅市街地との関係



2) 都市拠点と後背住宅市街地の機能分担とネットワークについて

- ・都市拠点と後背住宅市街地のネットワークにあり方として、新百合ヶ丘駅周辺地区など高齢化が進み、広い後背住宅市街地を有する拠点では、各都市拠点と後背住宅市街地内拠点が段階的にネットワークする「ヒエラルキー型」によって、人、モノ、情報の交流がより機能的に図れるものと想定されます。（次頁図：「都市拠点と後背地住宅市街地の機能分担とネットワークのあり方」参照）
- ・ただし、各住宅市街地内の生活圏等の圏域においては、自己完結が可能な一定の機能（施設）配置が必要で、自己完結できない機能については、都市拠点に機能配置を行うなど、地域で完結させる機能と、都市拠点で分担する機能の棲み分けが重要と考えられます。（次頁図：「都市拠点と後背地住宅市街地の機能分担とネットワークの考え方」参照）

■都市拠点と後背地住宅市街地の機能分担とネットワークのあり方（参考）

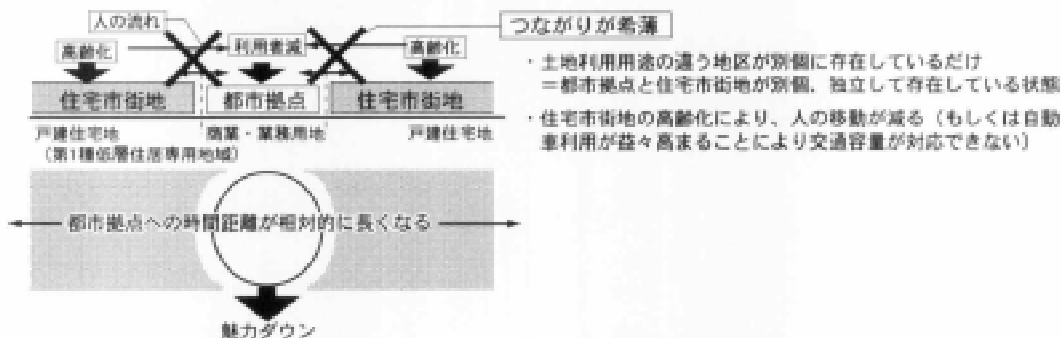


■都市拠点と後背地住宅市街地の機能分担とネットワークの考え方（参考）

【現状・課題】

○都市拠点と住宅市街地の役割分担が明確でない＝拠点、市街地とも陸の孤島状態

- ＝高齢化に対応できない
- 多世代が魅力あると感じる（求心力のある）まちづくりが必要
- 自動車だけでなく住宅市街地とのアプローチ、ネットワークの構築が必要



【今後の方向性】

○都市拠点と住宅市街地が役割分担を明確にすることで、多世代に魅力あるまち→拠点と住宅市街地のネットワーク化
→居住者の連携軸への魅力ある機能の導入・・・

両生区全ての道路の整備など移動環境を完全に整えることは難しいと思われるが、拠点と住宅市街地が互いにコミュニケーションを持つことにより、時間距離は短くなる可能性がある

